

新時代志向 建築設計・土木設計界

A & E

Architecture Engineering



若手5人の4年以上かけ調査

神奈川県立近代美術館普及課長

太田 泰人氏に聞く

米国レーモンド展を視察

神奈川県立近代美術館(鎌倉)の建築とデザイン展の巡回展... 企画したのもその一環だ。

施設にふさわしい建築展、今後

1978年から仏政府給費留学生としてパリ大学付属美術科... 建築は美しいですね

アントニン・レーモンド展

日米欧の若手キュレーター5人が、4年以上の歳月をかけて建築家のアントニン・レーモンドとデザイナーのノエミ夫人の生涯を追いかけた展覧会が、米国フィラデルフィアのペンシルベニア大学で始まり、注目を集めている。

作品は、アントニンとノエミの初期から1960年の難井沢の第一スタジオあたりまでを取り上げた。展示数は約200点で、スケッチ、図面、絵画、模型、写真、ビデオ、家具、テキスタイル、ラグなど多岐にわたる。



オープニング・レセプション(右)とノエミの作品(撮影:中原まり)

カへの旅を振り返り、その人の歴史を追いかけた。その活動資金は、ゲイリー財団から拠出された展覧会のための調査・研究助成金約2500万円であった。



もう一つの開催地(来春)、カリフォルニア大サンタ・バーバラ校美術館キュレーターのカーラ・ヘルツォック氏は、日本に住んだ際、レーモンドの作品に感銘を受けた、レーモンドの住宅で学位論文を書いた。レーモンドの人生を相対的に捉える役割を担った。

この5人をペン大建築アカデミーのジュリア・コンパース女史がまとめた。中原さんは「展覧会がオープンしたことの喜びは言葉にできない。この4年間、チームの5人が調査に励み、意見を戦わせ、涙を流したり、合意点を見つけて開演したことがかけがいのない思い出になっている」と話す。

この5人をペン大建築アカデミーのジュリア・コンパース女史がまとめた。中原さんは「展覧会がオープンしたことの喜びは言葉にできない。この4年間、チームの5人が調査に励み、意見を戦わせ、涙を流したり、合意点を見つけて開演したことがかけがいのない思い出になっている」と話す。

1914年に結婚。設計活動協働者として約40年をともに過ごした。うち40年が日本、20年がアメリカである。アントニンはボヘミア生まれ。プラハの大学卒業後アメリカへ移住。16年にフランク・ロイド・ライト

のスタジオに入所。19年に当時ライオンが手がけていた帝国ホテルのアシスタントで日本に渡った。日本の伝統建築と西欧の近代建築を融合した独特の作風を確立した。ノエミは仏生まれ。10歳でアメリカに移住。現コロンビア大のチ

濃密に2人の歴史を追う

ペンシルベニア大学で開催

巴を中心とした日本の近代建築を学位論文にした。主にコンクリート建築を担当した。スイスで教鞭をふるフランス人のクリスティーン・ヴァンデルヴェルディン・オーサンヌさんは、夫の仕事の関係で日本に居住。アントニンの生まれたデューク大学のプラハの大学で博士号を取得していることから、デューク時代の活動を中心に人生の背景をまとめた。

イチャーズ・カレッジで美術を学んだ後、イラストレーターとしてニューヨークで活躍していた。結婚後日本に渡ってからは、織物、家具の制作に取り組み、アントニンの空間をよりの高いものに仕上げることに貢献した。